

全日本大会（ロング）プロデューサ演説 追記 2

2016年9月9日

(有) ヤマカワオーエンタープライズ

山川 克則

9月5日の就任演説から始まる一連の私の演説文書ですが、公式Facebook、公式Twitter。オリエンティアメーリングリストなどに逐一情報は流していますが、私に直接ものを言うてくる人はまだわずかです。しかし、匿名で書き込める場所ではかなりの波紋、特に利害関係で影響の大きい学生オリエンテリングの世界（近いOB含めて）では、相当の波紋があったようです。それも殆どが批判意見。寝耳に水の人も多かったでしょう。さて、明日が学連の幹事会です。千名の学生（これ全員JOAの選手登録者でもあります）の利益代表である10数名の幹事の皆さんは、明日話し合うことの内容の責任の重さに身震いしていることと思います。それで、私の真意が伝わっているかどうかを見るに、もう1本演説をした方が明日の議論はより有意義になるかと思い、本日も短め？ではありますが、少しお話をさせていただきたいと思います。山川の文章は判りづらいと有名らしいので、今日は演説調で語りかけるように、でいきたいと。学連の広報に載せる文書は別に作成していますが、このようにYMOEのwebに載せるのは、学生だけでなく、オリエンティア全員に見ていただきたい内容でもあるからです。

さて私は、“インカレ至上主義”という言葉を使って、学生及び学生周りの若いOBの大半が全日本大会に参加しないことを、ワーキンググループが広報であげた問題点4つより、より深い問題があるという論理展開をしました。そのことで学生は批判されたのでしょうか？ 違います。全日本大会がなくなれば、インカレもいずれ開催できなくなる、という今突きつけられている問題だけは理解して欲しいところですが、まだ生きている時間が短い分の視界でしかない若い人達には、でもってインカレ自体は一時の底の状態を立て直して、今順調にそして盛大に継続できている現況においては、見えづらい現実ではあるかと思えます。でも、全日本の問題を認識している人間、これは私だけでなく、実はJOAの中にもいっぱいいるんです。もう何年も昔から。問題を認識していながら、発信してこなかっただけ。発信したら、今回この数日私がたちまちかぶった批判だけみても、その責任の方が大きいだろうことは明らかですからね。はい、今日の私の演説はほぼJOA批判の方に向いていきます。全日本改革は私しかできないという含みでプロデューサといういつでも首切れる役職を作って中に一時的に入れられた立場ですから、前向きな提言をするという前提で、がんがんJOA批判していきます。もう一度いいます。学生は何も悪いことはありません。怒られたわけではありません。そう思ったとしたら、私の書き方が下手なだけ。申し訳ありません、と、ここでも一旦お詫び申し上げます。そしてプロデューサ就任から4ヶ月も経過しての就任演説、その遅れも大変申し訳ありません。それだけ内情は、オリエ

ンターリング界でのあちこちでの対応で日常はいっぱいいっぱいということです。改めてお詫びを申し上げます。この演説すらも、西村という優秀かつ果敢な後輩が現れてくれなければそもそも書くことすら不可能です。

ということで、本当に悪いのは何なのでしょう？ それは、大した人数でないオリエンターリング界、競技も運営もする、人の土地・自然の山野、最近では公園・大学キャンパス・市街地までフィールドにするので渉外負担も他のスポーツの比ではない非常にユニークで負担の多い中、全日本とインカレでダブルスタンダードが存在している、そのことに尽きるのではないのでしょうか？ 学生を責めたのではない、ダブルスタンダードが何の危機感を共有するでもなく存在していること、このことが全日本問題の最大原因です。もはや緊急の課題である大問題であると、もう一度ここで声を大きくしていっておきたいと思います。ダブルスタンダードがある限り、学生はインカレ側のスタンダードで動きます。どんな手を尽くしても全日本大会の改革は成し遂げられません。書き込み及び私への投書（投書自体大歓迎です。匿名の落書きよりよほど健全な議論ができます）にも複数のコメントをいただいておりますが、“魅力的なトレイン・コース・イベント性”、それだけで全日本が再興できるとは、今の私には思えません。それは黎明期にオリエンターリングの面白さに若くしてのめりこんだことのある人（今の 50A 前後がその隆盛ぶりの影を今も残しています）の憧憬の映像でしかないと断言します。私の若い頃もその中の一人でしょう。なぜ私は断言できるのか、それは私が“プロ”、オリエンターリング事業者になってしまったからです。今のオリエンターリング界、皆が若い西村を応援しているように、プロ事業者は継続発展の為には絶対不可欠な戦力です。聞こえてくる皆さんの議論の中で一番抜けている視点が、プロ事業者からの視点です。絶対不可欠な役職と位置づけられるのであれば、プロ事業者からの視点も議論の中では顧みられるべきです。その視点からすれば、今の全日本大会は"超不良案件、超不良債権、絶対必要であるというならその対策には緊急を要する"ということになろうかと思えます。前の演説でも述べましたように、今のオリエンターリング界、種目多すぎです。大会多すぎです。フットだけで4種目、それぞれに全日本とインカレがあり、裏方作業も大変、出るのも大変、リソースはカツカツ。全日本は基本分散開催。どうみても健全ではありません。どんなに魅力的な舞台を用意しても、ダブルスタンダードがある限り、全日本に多くの学生を呼び寄せることは不可能です。みんな忙しいですから。重要行事の統合・再編は必須の改革事項なのです。スタンダードは完全シングルというわけにはいかないだろうけど、インカレ（インターハイも、そして時期的な関係から全日本チャンプ＝日本代表、となっていない現状があり、その議論もまた生じますが、少なくとも現況行われている日本代表選考会もこの相互に絡めあうイベントの一つにすればよいという投書を強化委員会委員よりいただきました）そのインカレと全日本がステップアップしていく過程において、相互に絡み合える規約に大きく書き換える、そのことは日本のオリエンターリングが、やってみると本当に面白くはまりこんでしまう人口が

それなりに継続的にある（特に学生界で）オリエンテーリングが、全日本もインカレのこの先長く継続していく為には、今後1年かけてやらねばならない最重要の改革事項である。このことを新設役職である全日本プロデューサとして、今、一番声を大きくして主張したいことです。コンサルタントとしての最重要指導事項として扱っていただきたく思います。

学連も確固たる民主的組織です、規約に則って運営されています。何か現況にそぐわない（そもそもインカレ至上主義のなかでは今の状況にそぐわない規約はないですよ、結構安住できてしまう環境ですね）、あるいは何か新しいビジョンがもたらされた（今回の私のアクションですね）、そのための規約改正を考えなければいけないとしても、合議体組織ですからその議論には1年かかります。それは民主主義の世の中、必要な手続きです。そんな中において、JOA（と言っても今表に出て来ているのは座長一人、他の人出てきなさい！JOA理事会通った重要課題なんじゃないのー？）とそのJOAの中に一時的に入り込んだ山川、この二人は緊急の危機だと言っている。学生には判りづらいたらうけど、判りづらくしたのも多分ダブルスタンダードの問題をずっと放置してきたJOAの責任だらうけど、このまま、じゃあ1年じっくり議論して来年からということに全部したら、今年1年（現実化作業の期間いれたら2年）、全日本を絶やさない為には、プロ事業者はその期間ずっと便利屋に成り下がっていなさい、ということになります。それはまあ言ってみれば、オリエンティア全員が、どんなに過酷な条件でも全日本は継続しなければいけない大会だから、今までのようにどんな条件でも何とかしなさい、とプロ事業者を脅している状態と同じではないでしょうか？そう思っていない学生がいたとしても、インカレの継続が当然という考えの裏では繋がってしまうのです。見えない所では少なからずインカレ準備にも影響は及びます。折角、硬いJOAの中に入りこんでその突破口を開け、風通しをよくしようと奮闘しようとしている人に対して今出来ることは何かないだろうか。すべて1年間議論しましょうでは、全日本プロデューサ就任の真の意味は無いと私は考えていますが、まずその立ち位置にいくばくかの共感を得たいなと思っています。もともと全日本大会改革は到底私一人でするものではない大仕事です。こんな観点からオリエンティアの皆さんにも考えてもらいたいし、まず明日の学連幹事会、学生の利益代表である10数名の幹事の皆さんには臨んでいただきたいと思います。論点を明確にし、“来年3月まできっちり議論すること”と“今すぐ決められる即効性のあること”、この2段階で有意義な議論が展開されることを強く望んでいます。私は7人リレーの準備で今回は立ち会えないので、今日の演説はこれで終わりです。それから最後にこのことをもう一度言っておきます。学生も今はJOAの正式構成員です。全員“選手登録者”です。つまり“中の人”です。学生はその人数を盾に理知的かつ積極的に関わっていけば、JOAの改革を中から変えることができる立ち位置にいます。これ、全日本プロデューサとしての強い発言です。すべてが良い方向に進んだ時、理想の全日本大会に向かえる用意のあることは、前の演説で述べた通りです。

前回より1ページ減りました。ご清聴（拝読）ありがとうございました。